

Catalogue No.

20153-11

共鳴する熱意。魂の息づかいが聞こえる逸品たち。

用美：時には放り出したいと思うほど、先生の注文には厳しいものがあります。ただそういう職人たちの気持ち、先生は手に取るように理解してくれています。

前田：とても不思議なことですが、熱意のある人のところには、熱意のある人々が集まってきます。用美さんが抱える職人集団はまさにそれ。「あんなこと言われたらぐやしい、よしやってみよう」とか。みんなで団結して創りあげていく。建築家としては、それに期待するところも大いにあります。

用美：先生の思想に共鳴しているからこそ、もう一歩やってみようと思えるのです。板あてや面の取り方など、その一つひとつを先生に教えていただきながら、後世に残るような日本のカタチ、つまり家具や器を作っていきたいですね。これも先生がおっしゃっていたことですが、用美にはそういう使命があると思っています。



五十鈴茶屋

すべては人との出会いからはじまる

